



リハビリ人生まだまだ道半ば （現役世代の苦悩）

愛知県名古屋市 細川 貴司

2013年11月15日工作中、急に言葉が出なくなり間もなく意識がなくなり救急車で搬送されました。脳出血発症!! あと2週間で46歳の誕生日を迎えるこの日を境に私の生活は大きく変わりました。

病院で目を覚まし、会社の上司、同僚、の顔。

その後、時間の経過は定かではありませんが 離れている兄、恋人が駆けつけ皆声をかけてくれましたが、意識が朦朧として何を喋っているのか、さっぱり意味がわかりませんでした。

視床出血 出血は10mlと少ないため開頭手術はなし、高次脳機能障害、利き手である右半身麻痺 意識がハッキリしてから担当医に聞いても

それがどのような状態で今後どうなるのかはわかりません

まず、右半身の感覚が無いというのは分かる。ただし感覚が無いからどこも痛くも痒くもない。大きな病気になるのかもしれないが ふくん、こんなものか、リハビリをすればそのうち良くなるかな?! 最初はこんな感じに軽く考えました。

2週間が経ち、車イス許可が出てトイレに座らせてもらったのは良いが、用を足してから

さて? 次はどうしたらいいのか? 「流す」「強弱」「止まる」、ウォシユレットの各ボタンを見ても その意味が理解出来ない。STさんのリハビリでも一桁の計算 「2+3」の意味が分からない: ああ 脳みそが壊れてしまったんだな:

最初はそんな状態です。

急性期病院からリハビリ病院へ。

病気との第一戦はここから始まりました。半年間の入院中に、右肩に出てしまった視床痛、腰、股関節痛とあらゆる痛みの繰り返しがありました。何とか退院、仕事復帰に向け、自宅でのリハビリ継続。

最初はほぼ無かった右半身の感覚も50%位まで戻り（あくまでも私見ですが）、一見普通に歩いているように見えるまで回復、二桁の足し算も時間はかかるものの何とか出来るようになり、今後の仕事復帰をワクワクしながら希望に燃えていました。このまま回復が続けば元通り!?になるかも…！ そんな期待までありました。

しかし現実の社会復帰は楽なものではありませんでした。朝の通勤中の人混み、パソコン入力、パソコンを持って移動、コピー用紙の入れ替え、外食先でのトイレ、食器トレーの持ち運び、仕事上または普段の日常会話、e t c それまで何気なく行っていた日常行為も出来なかつたり、手伝いが無ければ出来ない事も。次第にそういう小さな現実と直面する毎日、気が滅入ってきました。

自分が会社にいる存在意義は何なのか？ただ周囲に迷惑をか

けているだけじゃないのか？

加えて腰、股関節の痛みが繰り返され、その都度希望は「恐れ」「不安」に代わっていききました。

こんな状態が一生続くのか？生きてて意味があるのか？後ろ向きなマイナス思考の塊です。

それでも、妻や会社の周囲に助けられながら動きづらいなながらも、何とか復職してから1年余りになります。

病気にやっていた営業職が出来ないため慣れない内勤業務をしています。1日中ほぼ座りっぱなし↓運動不足↓筋力低下↓歩行への影響、偏った筋肉の使い方から来る腰、股関節の定期的な疼痛…と悪循環。更に、慣れない業務、環境の変化により緊張とストレスから「発語」への影響が表れ、周囲とのコミュニケーションも減っていく…などなど復職してから直面する問題も数知れず。日々のちょっとした動きづらさ、話づらさも1つ1つが不安につながります。医師、リハビリの先生達からは「今の状態に慣れる事」そして「夢中になれる事」を見つけないさいと何度も言われています。が、「夢中になれる事」？って何だろう?!

私は45歳で発症しましたが、昨今は40代・若年層の発症も少なくなありません。

若くして発症すればするほど、その後の人生も長く残り、後遺症を抱えた生活の中に生きがいを見つけないといけない。

頭では理解出来ても中々見つから無いのが現実です。

現役世代で発症し、後遺症と闘いながら社会復帰されてる方々も沢山いると思います。

まだ幼い子供がいて働かなければならない方々も沢山いると思います。

最近ではタレントの磯野きりこさん、天海ゆうきさん、西城秀樹さん、長嶋監督など著名人やタレントさんも後遺症の大小はあれど、社会復帰される姿に感心させられます。

自身の人生のため、家族のため、様々な状況の中で似たような経験をされている方々と

・共有したい。

・共感したい。

・お医者でもリハビリの先生でも本当の麻痺の感覚は分からないでしょう、

麻痺はなった者にしか分からない事が沢山ある。

・同じ悩みを持つ人がどのように克服してるのか？

・普段の生活に工夫している事はなにか？

・仕事復帰を果たし、日々のモチベーションを保つために取り

組んでいることは何か？

・全く同じ状況ではないとしても何かヒントはあるかも！

・「夢中になれる事」を見つけるヒントになるかも！

病気になる2年と少しが経過しました。まだまだ出来なくなった事を残念に思う事、悔しく思う事ばかりですが、病気になる事でプラスに思えた事と言えば、喋りづらくなったことで人と争う事は少なくなりました。相手を論破したり、一方的に考えを押し付けたり、という「上から目線」が少なくなったように思います。

そして何より、病気以前の約10年間交際していた彼女と入院中に籍を入れました。

私がどんな状態になるかも分からないのに結婚してくれた妻に大きな感謝です。

日常生活も妻なしではとてつもなく不便な日々だったでしょう。

もし独りでの暮らしなら、何をしていたかわかりません。(最悪のことも考えたでしょう)

病気になる前は、「今後の人生を妻と共に生きていけ」という神様からのメッセージかもしれません。

だとしても神様は随分と酷なハードルを与えてくれたものです

(笑い)

決して後遺症と共に生きていく覚悟が出来た訳でもなく、何か生きがいを見つけた訳でもなく、体験記にすらならない現在の状況ですが、これが発病2年、仕事復帰1年の「リハビリ人生まだまだ道半ば」そんな私の心境です。

もっともっと笑い話になる日を目指して……！